

- 「進路のしおり」発刊
- オープンキャンパス情報
- 期末考査迫る

## 「われら六中健児」

体育科 長井 正徳

今年の4月に着任し、始業式で生活指導部として挨拶をしました。まだ2ヶ月余りしか経っていませんが、私なりに少しでも皆さんの心に響く話をしようとしていたことが妙に懐かしく感じます。皆さんの心に以下の3つの話は残っていますでしょうか...

### ① 準備

テストでいい成績を残すための勉強も、部活動でいい結果を残すための練習も、行事の前にクラスや委員会で行う活動も、すべて何かを成し遂げるための準備であるという話をしました。準備とは自分自身をコントロールすることともいえると思います。日頃から準備を怠らない習慣を身につけ、「なりたい自分」になりましょう。

### ②「ルールの守り方」

自分の「安心」「安全」を守るだけでなく、保護者の方々や近隣の住民の方々、我々教職員にとっても、学校は安全で、安心できる場所である必要があるという話をしました。広い視野で様々な立場を思いやり、マナーやモラルについても考え、礼儀作法や倫理観や道徳心を身につけて「応援してもらえる人間」になりましょう。

### ③「課題解決能力」

部活動や委員会活動や学校行事は楽しむことだけが目的なのではなく、自分を磨くため、目的を達成するための課題を解決する経験を積む場であるという話をしました。様々な場面で物事を成し遂げるためには一つ一つの課題解決の積み重ね、課題解決能力を向上させて「自ら輝ける人間」になりましょう。

以上の3つは、人生を豊かにする上で有効な心構えであり、高校時代の経験に伴う考え方や生き方は人生の礎になると思います。私は旧校舎時代の新宿高校で高校時代を過ごし、硬式野球部で、HRで、臨海教室で、個性あふれる仲間や先生方と充実した3年間を過ごしました。後悔がないわけではありません。もっと本気で野球の練習をして本気で甲子園を目指したかった...好きではない勉強から逃げずに本気で進路を考えてみたかった...今となってはそれらの後悔を今の自分を生かす経験として、また、後輩たちの充実した高校生活をサポートする教材として、母校への恩返しができる環境に感謝しながら一日一日を大切に過ごしていきます。新宿高校のために、OBである私が存在する価値を少しでも高められるように努めます。どうか皆さんも、自分のために新宿高校に入学してよかった、新宿高校のために自分が入学してよかったと思えるような有意義な高校生活を過ごしてください。

始業式では最後に「皆さんは新宿高校が好きですか？」と聞きました。縁があって新宿高校に入学したわけですから、全員が新宿高校を好きになってもらいたい。新宿高校に好かれる生徒になってもらいたい。学校といい恋愛をしてください。

最後に、私は27年前に47回生として新宿高校に入学して以来、ずっと新宿高校が大好きです。27年前から、今も六中健児です。

## ○「進路のしおり」発刊

2019年度用の「進路のしおり」が出来上がりました。目次は以下のとおりです。

### 目次

- 1 進路の決め方
- 2 大学入試のしくみ
- 3 一般入試日程
- 4 2020年度大学入試センター試験  
出題教科・科目の出題方法等
- 5 大学入試共通テスト（新テスト）
- 6 2019年度 各学年の進路指導計画
- 7 文部科学省所管以外の学校教育について
- 8 調査書について知ろう
- 9 推薦入学制度
- 10 進学統計資料
- 11 合格体験記
- 12 新宿高校教職員・保護者が薦める新書 100冊
- 13 教育課程表

すべての学年にとって知っておくべき内容が凝縮されて載っています。1年間大切にし、折に触れて読み返しましょう。

**1年生は**「1 進路の決め方」「2 大学入試のしくみ」をしっかり読んで、進路の基本を学んでください。また「8 調査書について知ろう」を読むと、1年次からの成績がいかに大事かよく分かります。高校受験では、中学3年生の成績が重要でしたが、大学受験では高校1年生からの成績がすべて調査書に反映します。あとで頑張っても取り返せないものがあるということを肝に銘じておきましょう。

**2年生も**「2 大学入試のしくみ」を読み、および「3 一般入試日程」を見て来年度に備えましょう。

**3年生は**、しおりの隅から隅までを熟読して、受験に向けた心構えを作ってください。

中でも「11 合格体験記」は、新宿高校で学んだ先輩たちの貴重な体験が記されています。誰もが、愛する母校の後輩たちのためにと、いいこと

も悪いことも包み隠さずに話してくれています。そんな思いをしっかり受けとめ、皆さんの糧としてください。3月22日の合格速報会で話してくれた先輩のものもあります。

## ○ オープンキャンパス情報

2020年度からの大学入試改革に先行する形で、ここ数年、大学の入試科目に変更が多く見られます。去年と今年の受験科目が同じとは限りません。そのためにも、**オープンキャンパス**に出かけて情報を集めましょう。大学の雰囲気を感じることが大切です。早いところではすでに実施していますが、多くの大学は夏休みが中心です。大学によっては**事前予約が必要**なところもあります。

東京大学8/7-8、東京外国語大学7/20、一橋大7/28、東工大8/10、東京農工大学や千葉大学は学部ごとに日程が出ています。既に申し込みが始まっている大学もありますので、参加希望者はHPで確認して申し込みをしてください。すぐに定員が埋まってしまう大学もあるようです。

首都圏の主な大学のオープンキャンパス情報は教室に掲示してあります。参考にしてください。

## ○ 一日医師体験・看護体験

医療・看護系への進学を考えている人は、夏休みを利用して「1日医師体験」「1日看護体験」などに参加するといいいでしょう。医療分野の大学入試にはほぼ面接試験があり、そこで体験参加の有無を聞かれることもあります。進路室前の廊下に「医師体験」「看護体験」の案内ポスターが貼ってありますので、手順したがって申し込みをしてください。わからないことがあれば進路室に問い合わせてください。



## ○1年スタディーサポートの返却

5月に実施した1年生のスタディーサポートが返却されました。年を追うごとに学力上位層が増えており、最上位層のS1段階の生徒は68名。ベネッセが言うには、これは「東大や医学部医学科を狙える学力層」なのだそうです。1年生全体として幸先のよいスタートが切れたということですが、このレベルをいかにして維持し、伸張させるかが今後の課題になってきます。

その際に重要になるのが学習習慣がどうなっているかということです。高校生になって既に2ヶ月半、部活動にも入り、日々の生活パターンが出来上がってきているところ。予習はできているか、復習はどうか。1年生は自分のこの一週間を振り返り、修正すべき部分があれば早めに直しましょう。

## ○前期期末考査迫る 7/1・2~5

つい先日、中間考査が終わったばかりですが、3年生は7月1日から、1、2年生は2日から期末考査が始まります。

前回の中間考査で悔しい思いをした人は、今日から計画を立てて復習をしましょう。定期考査は試験範囲が狭いので、勉強した分だけ必ず結果がでます。その積み重ねが皆さんの実力になります。

特に3年生は、前回の中間考査と今度の期末考査を中心に3年生の仮評定が決定します。そういう意味でも重要な考査です。しっかり取り組みましょう。戸山戦を終えて部活引退となった人も多いと思います。ここからが勝負。去年の先輩たちもここから頑張っていました。

### 先輩からの言葉

## 美術史研究者として

元 大和文華館学芸部次長(部長職兼任) 現 密教図像学会委員

せいこ  
14回生 村田 靖子

高校生の頃、マスコミは女性の一人立ちには専門の仕事を持つことと謳っていた。精神的自立のためには先ず経済的自立をと。

また、考査の翌週8日は各学年とも実力テストです。こちらもしっかり頑張りましょう。

## ○ 東工大出張講義

7月5日(金)、期末考査最終日の午後に東京工業大学の先生による出張講義があります。詳細は以下の通りです。

日時 7月5日(金) 13:15~14:45

場所 3階 視聴覚室

講師 正井 秀俊 (マサイ ヒデトシ) 先生  
東工大理学数学系 助教

内容 「ジャグリングの“かたち”」

2年生が対象ですが3年生も出席可です。特に東工大受験を考えている人は参加するといいいでしょう。また、保護者の皆さまもご参加いただけます。

### 【今後の予定】

○ 推薦説明会 6/27 木 12時30分~ 視聴覚室  
(3年生で「推薦」と名の付く入試を考えている生徒は必ず参加すること。)

※指定校推薦の募集は2回のみです。

○ 期末考査 7/1月~5金(3年)  
7/2火~5金(1、2年)

○ 実力テスト7/8月(3年は7/9も)  
(1、2年進研模試、3年駿台マーク)

○ 東京工業大学模擬講義 7/5金 午後

○ 7/16火 全体集会

○ 7/17水 夏期休業 始

の事情で、同じ国立大学を三回受験した。日本でも有数の薬師寺研究の先生がいる所である。日本人から日本の遺産の研究をしよう・・・と。東京教育大学(現、筑波大学)教育学部芸術学科美術史学専攻。入学時は入学金を親から援助してもらい、その後は大学の四年間と大学院二年間の学費や小遣いをアルバイトで賄った。家庭教師や有名デパートが取り寄せたアメリカの服飾雑誌の翻訳をした。当時、国立大の学費は安かった。姉の援助もあったが、経済的自立の始まりだった。

大学では毎年、気候の良い時季に、奈良・京都への学外演習があった。奈良国立博物館の向かいにあった「日吉館」に泊まって、一学年七名の一～四年生と大学院生が共に寺院を巡り、仏像を見て回った。寺の許可の下、暗い堂内にライトを当て、浮かび上る仏像の姿に教室では得られなかった実物の迫力を感じた。大学院では恩師の研究テーマと同じ薬師寺の仏像に打ち込んだ。先生方の調査チームに加えられ、銅製の薬師寺講堂三尊像(重要文化財)を精査した。紅一点であり、黒装束に身を固め、仏像の膝の上にも乗った。寺で女性が仏像に触れることが禁じられた時代の名残がまだあったが、幸運だった。この三尊像は、有名な金堂の薬師三尊像(国宝)と同等の大きさであるが、伝来と制作年代が不明だった。様式と江戸時代までの文献から自分なりの見解を出し、修士論文とし、初めて美術史学会で発表し、研究誌にも載った。

卒業後は東京で大学や美術館に空きが無く、東京国立博物館で臨時職員をした。その際、縁あって奈良の近畿日本鉄道株式会社(近鉄)が運営する大和文華館の二代目館長に引き抜かれ、早く自立したかった私は、早々に奈良の住人となった。二十八才だった。日本・韓半島、中国を中心とする古美術を所有する明るい環境の美術館は魅力的だった。奈良の静かさも訪れる度に憧れとなった。三人兄弟の末娘の気楽さもあったが、母は後に大部寂しがったと知った。初代館長はボッチチェリの研究などで有名な矢代幸雄氏であった。

学芸員は五人。女性は私を含めて二人。仕事は様々である。展覧会の計画を中心として、その為の研究・

調査、美術品の購入。展示場での説明。日曜美術講座での研究発表。研究機関誌「大和文華」の発行。図書整理。友の会々員のための「美のたより」の編集。これらを五人で分担する。展覧会には特別展もあり、年一回の順番で担当する。その為の事前調査は一年ほど前から所蔵家を訪問する。その人々とのコミュニケーションが重要である。

私はこの他に、諸外国人向けの展示場案内(英語)や外国からの問い合わせへの返事(当時はタイプライターで)を担当することになった。

在職中、女性学芸員の日々の想いを綴った『女性群像 わたくしの美術館』(共著、大日本絵画)『仏像の系譜 ガンダーラから日本まで』『奈良の仏像』(どちらも大日本絵画)が出され、三冊の著書となった。『仏像の・・・』は二〇〇二年に中国の上海辞書出版社(北京)からも中国語版が出され、『奈良の・・・』は日本図書館協会の選定図書になった。

学芸員の傍ら、順に四つの大学で非常勤講師を勤めた。六十歳で退職後も二か所で講師をしたが、この時心臓の欠陥が見つかり、二〇一〇年に六時間の手術をした。

在職中に三つの金銅仏関係の特別展を受け持った成果が退職時の『小金銅仏の魅力』(里文出版)になり、その後同出版社から『もっと知りたい奈良の仏像』『もっと知りたい京都の仏像』、更に京都の淡交社から『京都の仏像』が出た。

現在、『日本人と仏像』(里文出版)を執筆中だが、この九冊目の本が、苦しい仕事となっている。

就職の翌年、世話する人があって結婚、これで本当の関西(京都)人となった。一人娘を保育所に預けて、結婚前から合わせて三十一年の勤務となった。娘は私の密かな願いの通り、結婚して、近くに住み、可愛い孫を連れて時々訪れる。

ひたすら自立を目指し、進んだ道は間違いではなかった。熱意があり、努力していれば必ず願いは叶うという実感がある。それも周囲の理解や協力、応援があり、何より家族が健康だったからである。

現在も研究を続け、学会の委員も務めている。